

決算特別委員会

- ◎ 開催日時 平成 29 年 10 月 26 日（木） 10 時 00 分～16 時 58 分
- ◎ 開催場所 議員室
- ◎ 説明員 青木教育長、福永県民生活部長、高橋農政水産部長、宮川総合政策部長
および関係職員

◎ 議事の概要

1 議第102号、報第7号、報第9号および報第10号について

【教育委員会所管分】

委員からは、本県の子供の読書率が低い中、子供の読書活動を推進するためには、教員のスキルアップや学校図書館のリニューアルなどが必要であることから、平成 28 年度に行った子ども読書活動推進事業や学校図書館活用支援事業などの成果を適切に見定めながら、施策の展開を図られたい、職業的自立と社会参加を目指したしがごと検定について、特別支援学校高等部の生徒の就労に向けた成果を上げている一方で、担当する教員はしがごと検定に係る業務量に苦慮していると聞いており、働き方改革に考慮した現場に対するバックアップをお願いする、などの意見が出された。

【県民生活部所管分】

委員からは、組織改編で県民生活部となったことについて、県民に対する行政サービスを向上させるために組織改編されたが、新生美術館の迷走や希望が丘文化公園基本計画策定の延期などの課題が多く見られたので組織の体制として適切であったのか不断の検証をされたい、エネルギー社会トップモデル形成推進事業について、トップモデル形成事業と言いながら民間事業者の取り組みに助成しただけで、県が責任を持ってモデルを創出する事業と区別する必要があるのではないか、などの意見が出された。

【農政水産部所管分】

委員からは、「琵琶湖八珍」ブランド化事業について、湖魚の消費拡大を目的に実施されているが、固有種であるセタシジミの資源回復事業をしているにも関わらず、琵琶湖八珍には入っておらず、消費拡大をしなくていいと受け取られかねない、琵琶湖八珍にセタシジミを入れ、湖魚の生産から販売、消費につなげるための戦略の見直しが必要ではないか、「みずかがみ」PR支援事業について、関西圏でのテレビCM放送よりも、県外からの人が大勢集まる場所で、実物を見て手にしてもらう宣伝が必要ではないか、などの意見が出された。

【総合政策部所管分】

委員からは、滋賀・びわ湖ブランドの推進について、県のブランド推進の大元を担い、税金を投じて事業を実施している以上、何をを目指しているのかを明確にするべきである、危機管理センターにおいて、迅速な情報収集や分析、関係機関との情報共有で統一された状況認識に基づく意思決定が可能となったとのことだが、本当に危機管理体制がきちんとできているのか不安である、災害警戒本部が設置されても適切な時期に市町に情報

が行かないと意味がないので、他部局所管の部分であっても、防災危機管理局はリアルタイムで情報を把握するべきであり、もっと県民の安全のために心を配って、有効なセンターの運営をお願いしたい、などの意見が出された。



委員会で配付された資料

- 1 決算特別委員会部局別資料（平成 28 年度歳入歳出決算）教育委員会
- 2 平成 28 年度随意契約の結果（500 万円以上の工事、物品、委託）教育委員会
- 3 決算特別委員会部局別資料（平成 28 年度歳入歳出決算）県民生活部
- 4 平成 28 年度随意契約の結果（500 万円以上の工事、物品、委託）県民生活部
- 5 決算特別委員会部局別資料（平成 28 年度歳入歳出決算）農政水産部
- 6 平成 28 年度随意契約の結果（500 万円以上の工事、物品、委託）農政水産部
- 7 決算特別委員会部局別資料（平成 28 年度歳入歳出決算）総合政策部
- 8 平成 28 年度随意契約の結果（500 万円以上の工事、物品、委託）、平成 28 年度長期継続契約締結結果（7 千万円以上）総合政策部